



令和7年4月28日

5月 調布幼稚園だより



『はじめての一步』

園長 山形美津子

入園、進級から3週間が過ぎました。園庭では、年長組が作った鯉のぼりが元気に泳いでいます。年長組に進級して初めての共同作業で作った鯉のぼりです。空を泳ぐ姿に、園児みんなが大喜びしている毎日です。

年少組はお弁当も始まり、少しずつ園での過ごし方が分かってきたようです。年中組は新しい友達や先生との新たな環境の中で、一生懸命に生活している姿が見られ、これからの遊びや活動が楽しみです。

年長組は最高学年になったという喜びと自信に満ち溢れ、これからの活動に意欲を感じている毎日です。それぞれの子どもたちが、調布幼稚園での「はじめての一步」を踏み出しました。

年長組は始業式の次の日から年少組の部屋に行き、『お助けマン』として、年少さんの朝の支度を助けてあげたり教えてあげたりしてお世話をしてくれました。頭には、お助けマンの絵が描かれたお面を付けています。年少組の中にはまだ泣いている子もいましたが、一緒に積み木やままごとなどで遊んであげたり、ブロックのコーナーでは「こうやっpegらん」と手本を見せてあげるなど、いろいろななかかわりの姿が見られました。

年少組の子どもたちは、お助けマンのお面を付けた年長組を見て、頼るようにカバンを置くことやタオルをかけることを手伝ってもらっている子もいました。お兄さんお姉さんが来てくれたことがとても嬉しい様子の年少組でした。

他者の心を読み取る能力はとても大事です。社会性の元になるものだと思います。年長組の子どもたちが年少組の子どもたちの心を読み取り、何とかして助けてあげたい、教えてあげたいという年長組の行動は、今まで培ってきた他者と心を通わせようとするコミュニケーション能力の発揮の場であったと思います。また、今回は年下の友達とのかかわりだったので、その意味でも貴重な場でありました。

年少組の先生に「とても助かるわー」「明日も来てね」と言われると、年長組の子どもたちは更に張りきって、自分の朝の支度を早く済ませて年少組の部屋に一目散に出掛けるという日々が続きました。幼児期のわずか、一年、二年の違いですが、この間の成長は著しいことがよく分かります。年中組、年長組はこれまでに学んできたことが確実に身に付いており、それがこのお助けマンのように、自分の力として発揮できるようになっていることが素晴らしいです。

年中組は4月に2回お散歩に出掛けました。2回のお散歩では上手に歩けたので、3回目はふくし公園まで行って遊んでくるという計画でした。事前に担任の先生から歩き方や道路でのマナーについての指導があり、いざ出掛けると、お話を聞いたことをしっかり守って行動ができていました。ふくし公園でも園庭とは違う雰囲気の中で楽しく遊ぶことができました。やがて遠足に出掛けたときに活かしていけることだと実感しました。

今、幼稚園の『こどもの畑』では、年長組が年中組の時に種を蒔き、育てているソラマメとジャガイモがぐんぐん伸びて緑の葉を茂らせています。水やりも一生懸命行っています。5月～6月にかけて収穫するのを楽しみにしている年長組です。どの学年も年間通していろいろな野菜を育てていきますが、生長の様子をみんなで観察したりお世話をしたりして、どのように育っていくのか興味を広げていき、やがては食育につなげていくことが目的です。学年だより等でお知らせしますので、ご家庭でも話題にしていただければ幸いです。

保護者の皆様、地域の皆様、今後ともご指導ご支援の程、よろしくお願ひ致します。

5月の目標

全学年

- 飼育物や栽培物、自然物に関心や親しみをもつ。
- 学年毎に行う栽培物に関心をもち、土づくりをしたり、種や苗を植えて生長過程を見たり収穫に期待をもったりする。

年少組

- 担任に親しみをもち、安心して生活する。
- 担任とのかかわりを基盤に、気に入った場所や遊具を見つけて遊ぼうとする。

年中組

- 担任とのかかわりを基盤に、自分の思いを表しながら友達と遊ぶ。
- 当番活動などを通し、自分たちの生活を自分たちで進めようとする。
- 身近な遊具、用具を使ったり、廃材で工作をしたりなどやりたい遊びを楽しむ。

年長組

- 自分のやりたい遊びに夢中で取り組んだり、友達や担任及び他のクラスの先生たちとのかかわりを楽しんだりしながら、クラスのつながりを感じる。
- 砂や泥や水などの感触を楽しんだり、特性に気付いて試したりして遊びを楽しむ。
- 新しい場での生活の仕方や片付け方を知ったり、1日の園生活の流れが分かって行動したりする。
- 田んぼの泥の感触を味わったり、田植えをしたりして稲の生長を楽しみにする。

調布幼稚園名物 「年長児の手作りこいのぼり」

副園長 奥津 亜貴子

毎年、4月の後半から5月の中旬頃まで「年長児の手作りこいのぼり」が園庭を優雅に泳ぎます。こいのぼりの形や数は少しずつ変わってきていますが、これは45年以上前から続いている調布幼稚園の名物です。

今年の年長児も年中組の時に「こいのぼり」があがる瞬間を一緒に共有し、「来年は自分たちが！」と期待感を高めていました。

こいのぼりのうろこの設計図（写真左）を5～6人のグループで話し合い作りますが、「私はこうしたい」「僕はこうしたい」など、なかなか意見がまとまりません。担任が間に入り、少しずつ互いの意見を調整しながらアイデアを子どもたちと一緒にまとめていきます。出来上がったこいのぼり（写真中央）は、今年も年中組が見守る（写真右）中であげました。素敵なこいのぼりが完成です。

子どもの成長を願うために飾る「こいのぼり」滝を登って龍になる鯉のごとく、子どもたちが力強く成長することを願います！

